

○ 本校の概要

<p>【学校規模】 ◎学級数:20学級 ◎児童数:606名(5月1日現在) ◎教員数:27名 ◎所在地:大田区池上7-18-1</p> <p>【学校の特色】</p> <p>◎児童は、明るく素直な子が多く、挨拶などの基本的な生活習慣が低学年を中心に身に付いている。学力は、約8割の児童が基本的事項は理解できているが、二極化が進んでいる。</p> <p>◎野球、ソフトボール、サッカー、卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボールの6団体が「TSA(徳持スポーツアソシエーション)」という組織を構成し、児童の健全育成にあたっている。</p> <p>◎体力向上を目指して、全校でのマラソン大会を実施し、保護者・地域・町会と連携して取り組んでいる。4～6年生は、学校周辺に周回コースを設定して実施している。</p> <p>◎PTAと連携して毎朝集団登校を実施し、8時10分には全校児童が登校完了をしている。また、朝遊びの時間を十分確保することで、生活リズムの形成と体力向上に取り組んでいる。</p>
--

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:90%以上	4	<p>【取組み】</p> <p>◎算数科で習熟度別少人数指導を行い、個に応じた指導と基礎基本の徹底に全校で取り組んだ。</p> <p>◎算数だけでなく他教科でも課題解決学習に取り組む。児童が主体的に活動する授業を全校で行った。</p> <p>◎児童アンケート調査では、昨年と同じく91%の児童が「めあてをもって学習することができた」と答えている。</p> <p>【今後の改善策】</p> <p>◎学力の二極化に伴い、下位層児童を対象とした補習教室を土曜日だけでなく平日放課後にも合計26回行い、基礎学力の定着を目指す。</p> <p>◎新学習指導要領へスムーズに移行するため、全校体制で年間指導計画をしっかりと立て、計画的に教育課程を実施していく。</p>	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:80%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:70%以上			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:70%未満			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。				
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:90%以上	4	<p>【取組み】</p> <p>◎年3回の「いじめアンケート調査」を基に、いじめの早期発見、未然防止に取り組むことができた。</p> <p>◎組織的な取り組みを継続してきた結果、児童が「いじめはいけないうこと」と認識できている。</p> <p>◎児童アンケート調査「きまりを守って生活することができた」の項目で、91%の児童が良かったと答えていた。</p> <p>【今後の改善策】</p> <p>◎全校で「朝のあいさつ運動」を更に充実させ、日常の挨拶の励行を図る。</p> <p>◎各調査結果から一人ひとりの児童の状況を把握し、必要に応じて担任やカウンセラーが面談するなどきめ細やかに対応し、不登校ゼロを目指す。</p>	・今後も道徳心向上を目指してください。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:80%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:70%以上			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:70%未満			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:90%以上	3	<p>【取組み】</p> <p>◎「一校一取組」としてマラソン(持久走)に全校で取り組んだ。4年生以上は校内マラソン大会を実施し、体力向上を推進した。</p> <p>◎継続的な取り組みにより、小学生駅伝大会において、大会新記録を出し好成績を修めることができた。</p> <p>◎児童アンケート「体育の学習や体育朝会・休み時間に一生懸命運動した」の項目では、肯定的な評価が86%と昨年度よりも減少している。</p> <p>【今後の改善策】</p> <p>◎体力テストの結果を基に、苦手な種目にも児童が挑戦するような取組を進める。</p>	<p>・大田区小学生駅伝2位、おめでとうございます。</p> <p>・今後体力向上に期待します。</p> <p>・規則正しい生活、体育指導、体力づくりにとても力を入れていると思います。</p>
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:80%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	2:70%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:70%未満			
		「1校1取組」である持久走(マラソン)の取組を通して、児童の体力が向上するように指導する。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:95%以上	3	<p>【取組み】</p> <p>◎初任者～3年次までの教員を中心に、若手研修会を実施した。2校目の教員も参加し、授業公開を通して学習指導力が高まりつつある。</p> <p>◎保護者アンケートでは、「よりよい授業づくりに取り組んでいる」の項目で、昨年度と同じく91%が良くできていると答えている。</p> <p>【今後の改善策】</p> <p>◎電子黒板・書画カメラ・タブレットを授業で有効活用することで、児童が意欲的に学習に向かい理解を深められるよう努めていく。</p>	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:85%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:70%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:70%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。				
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出します。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:90%以上	3	<p>【取組み】</p> <p>◎算数ステップ学習や東京ベーシックドリルを活用して、家庭学習に取り組ませた。</p> <p>◎「徳持小学校学習のすすめ(スタンダード)」で、「学年×10分の家庭学習」の定着に取り組んだ。</p> <p>◎保護者アンケートで肯定的な評価は88%となり、昨年度よりも若干減少している。</p> <p>【今後の改善策】</p> <p>◎年度当初から、保護者会等で「学年×10分の家庭学習」を呼びかけ、児童の学力がより深まるように取り組んでいく。</p>	<p>・家庭環境の影響を、食育や教員の心で補ってください。</p> <p>・ご家庭との連携や協力は必要ですが、とても良い取り組みだと思います。</p>
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:80%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:70%以上			
		学習する習慣が身に付くように、各家庭が「学年×10分」の家庭学習に取り組むように働きかける。	1:70%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載